

6 - 1 1926 年以後の日本付近の大型地震の発生分布

気象庁 地震活動検測センター

本邦の被害地震分布図はすでに地震予知連絡会会報にも報告しておいた⁽¹⁾、地震予知の上からは、規模別に区分した地震が、どこでどの位の割合で発生しているのかを承知しておくことが必要である。こういう目的のために、1926 年以降の 44 年間に発生した中規模以上の地震を調査したものである。

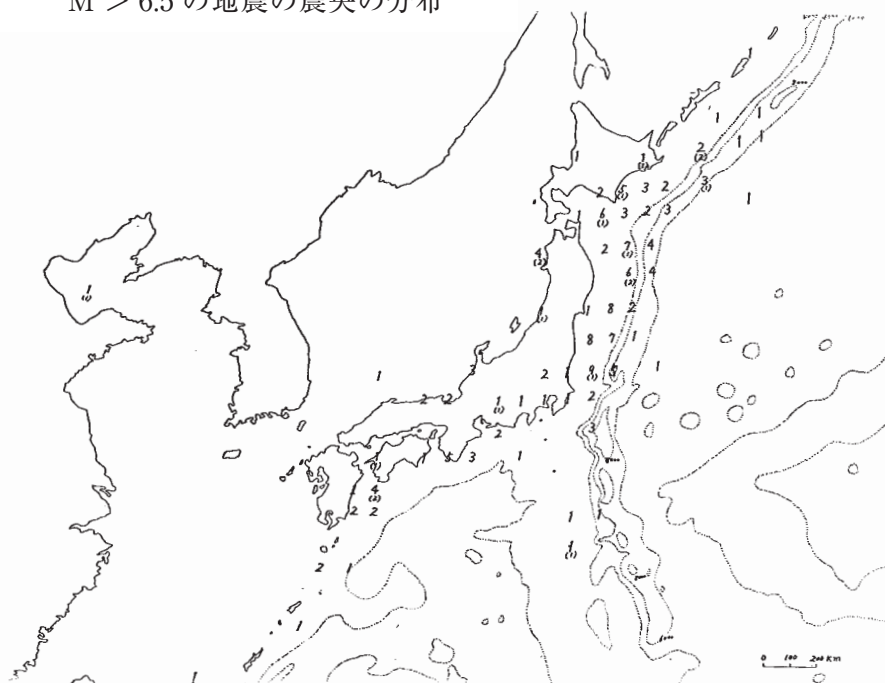
第 1、第 2、第 3 図は日本付近を緯度、経度共 1 度毎の網目で区切り、その網目内に 1926 年以後 1970 年 8 月までに起こった地震を夫々マグニチュード $6.5 \leq$ 、 $7.0 \leq$ 、 $7.5 \leq$ の 3 つに区分してプロットした地震数であり、() で示したのは、その中で 1964 年以後 1970 年 8 月迄の 6 年 8 か月に起こった地震数である。

これからみると、マグニチュード 7.5 以上の地震は上記のように区分した網目の中で、この期間中 2 度起こった所はないが、それ以下の中規模の地震は、地震の起こり易い所では繰り返し起こることを示している。

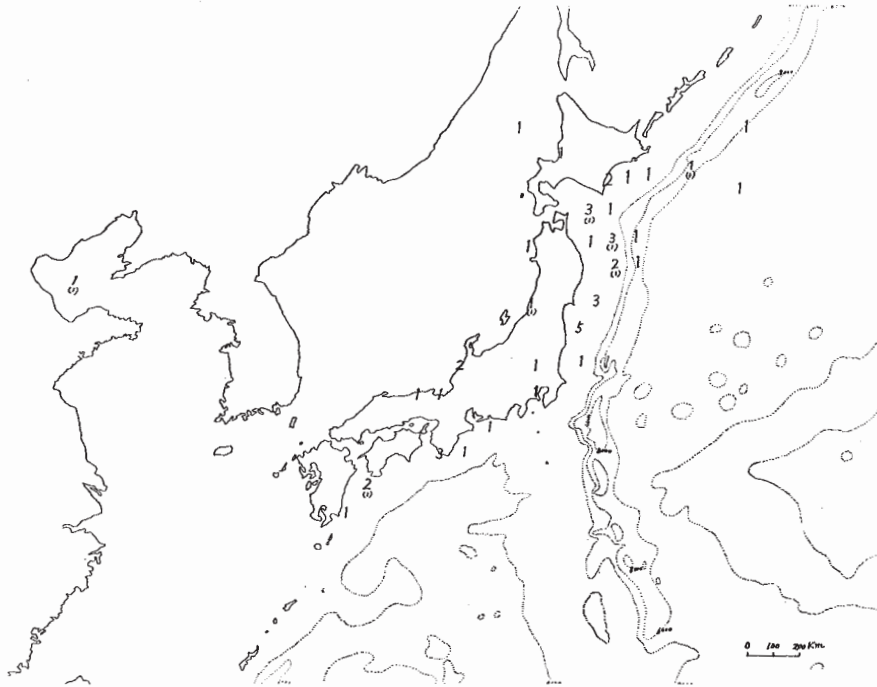
参 考 文 献

- (1) 気象庁：本邦被害地震分布図について、地震予知連絡会会報第 3 卷 1970 年 7 月

第 1 図 1926 年～1970 年 8 月に緯度、経度共 1 度の網目の中に入った $M > 6.5$ の地震の震央の分布



第2図 1926年～1970年8月に緯度、経度共1度の網目の中に
起ったM>7.0の地震の震央の分布



第3図 1926年～1970年8月に緯度、経度共1度の網目の中に
起ったM>7.5の地震の震央の分布

